

自律的移動支援プロジェクト

—すべての人が持てる力を発揮できる
社会システムを目指して—

平成16年3月

推進委員会等の設置

自律的移動支援プロジェクト推進委員会

- 委員長 坂村 健氏 (東京大学大学院教授)
- 委員 川嶋 弘尚氏 (慶応義塾大学教授)
- 後藤 省二氏 (三鷹市企画部情報推進室長)
- 竹中 ナミ氏 (社会福祉法人プロップ・ステーション理事長)
- 月尾 嘉男氏 (東京大学名誉教授)
- 長谷川 貞夫氏 (日本点字図書館評議員)
- 長谷川 洋氏 (筑波技術短期大学助教授・日本聴覚障害者コンピュータ協会)
- 福島 智氏 (東京大学先端科学技術研究センター助教授:バリアフリー部門)
-
- 井戸 敏三氏 (兵庫県知事)
- 矢田 立郎氏 (神戸市長)
- 金井 照久氏 (国土交通省政策統括官)
- 谷口 博昭氏 (近畿地方整備局長)
- 梶原 景博氏 (近畿運輸局長)
- 浜口 達男氏 (国土技術政策総合研究所長)
- 渡邊 茂樹氏 (国土地理院長)

国土交通省トータルコーディネーター

大石 久和氏 (国土交通省技監)

神戸プロジェクトチーム

座長：国土交通省近畿地方整備局企画部長

スーパーアドバイザー：坂村 健氏（自律的移動支援プロジェクト推進委員会委員長）

竹中 ナミ氏（自律的移動支援プロジェクト推進委員会委員）

サポーターとの連携・・・民間企業として技術的な支援等

NTTドコモ、KDDI、ボーダフォン、DDIポケット

NEC、カシオ、京セラ、東芝、日立、富士通、松下、三菱電機

JR西日本、JR東日本、トヨタ

インスパイア、セコム、NTTコムウェア、沖電気、日本オラクル、マイクロソフト

ゼンリン、大日本印刷、凸版印刷、パスコ、国際航業、昭文社、(社)交通バリアフリー協議会

交通エコロジー・モビリティ財団、(財)日本デジタル道路地図協会、定期航空協会

(引き続き参加希望企業の参画を求めていく)

スケジュール

平成16年3月18日(木):神戸プロジェクトチーム発足準備会の開催

平成16年3月24日(水):第1回プロジェクト推進委員会開催

平成16年度:ITS世界会議とタイアップした「障害者にも利用できる
歩行者ITS」を名古屋で試行、状況の把握
神戸地区での設置を念頭に置いたピクトの公募 選定

平成17年度:神戸地区においてピクトの設置
ITを活用した各種交通モード、施設等が連携した経路案
内システムについて社会実験

平成18年度以降:本委員会で得られた成果を全国展開

取組みの必要性

すべての人が持てる力を発揮し、支え合う
「ユニバーサル社会」の構築の一環として、
社会参画などにあたって必要となる自律的な
移動を可能とする取組みが必要。

急速な少子高齢化により、要介護者とともに暮らし、介護する側も高齢化する社会となる。

互いに支え合う社会としていくことは、国民共通の課題であり、全ての人々の参画によって創りあげていくことが基本。

様々な分野の人々がアイデアを出し合い、10年先を見据え、今こそ、知恵を結集する時

ビジット・ジャパン・キャンペーンの一環として、訪日外国人の方々へも多言語での情報提供が可能となる。

取組みのフィールド

国際都市神戸をモデル地区として社会実験を実施

阪神淡路大震災の経験をこれからの日本の社会に活かす

・6,400人以上の尊い命を失った大震災を乗り越え、全ての人の協力と和の中でまちづくりが進められている。

・震災の経験をもとに、神戸がユニバーサル社会実現へ向けた新しい考え方を提示することは、震災時に神戸を支えてくれた全国の地域・人々への貴重なメッセージになる。

震災後10年の節目の時に、「災害に強い安心なまちづくり」へと新しく生まれ変わろうとする神戸の思いを世界へ発信することは意義深い。

神戸は、陸・海・空の交通が交わり、海外からも多くの人を訪れる国際観光都市。

あわせて2005年度は神戸空港の開港、「チャレンジド・ジャパン・フォーラム(CJF)国際会議in神戸」の開催が予定されている。

■ 様々な移動制約の存在(その1)

出発前 : 事前の移動のしかたの検討



目的地までのバリアフリールートや鉄道・バスなどの運行情報
.....様々な資料をつきあわせる必要がある



突然のダイヤの乱れで、到着時間が予測できない
普段使わない駅だと乗換えが分からない

■ 様々な移動制約の存在(その2)

移動途中 : 急な運行の変更等への対応



突然の道路工事で段差ができて通れない



電車が不通
.....適切な情報が得られずどうやって乗り
換えるかがわからない

■ 様々な移動制約の存在 (その3)

目的地付近



新幹線から降りた途端、外国語の移動情報がない



子供の視線から街のサインが見えない
.....お使いの途中どこで曲がるかわからなくなる



点字ブロックに沿ってきたが、肝心の目的地
がわからない

■情報通信環境の発展(その1)

＜世帯における普及率＞

携帯電話 10.6%(1995) → 75.6%(2001)

パソコン 16.1%(1995) → 50.5%(2001)

インターネット対応型携帯電話
8.9%(1999) → 44.6%(2001)

資料:総務省「平成13年度通信利用動向調査 世帯編」

1979年 移動電話(自動車電話)サービス開始

1987年 携帯電話サービス開始

1999年 携帯電話でインターネットにアクセスする
サービス開始

2001年 第三世代携帯電話サービス開始

- ・ローミングサービス(海外で使用可)
- ・データ通信が高速になる

■情報通信環境の発展(その2)

- e-Japanの推進(2001年3月～)
 - ・ブロードバンド・常時接続が急速に普及
 - ・IT国家実現に向けた制度整備が進展(電子署名法 等)
- 通信方式の多様化
 - ・携帯テレビ電話の開発・普及・・・2001年サービス開始
 - ・無線LANサービス(ホットスポット)の普及
 - ・・・鉄道駅 道の駅 空港などで実験・導入
- 通信環境の変化
 - ・ADSL, ケーブルテレビなどのブロードバンドの普及
- ピクトの標準化
 - ・2000～2001年交通エコロジー・モビリティ財団において検討
 - ・2002年3月20日 JIS(日本工業規格)化
- 家電製品のデジタル化
 - ・地上デジタル放送・・・2003年12月スタート
 - 2006年までに 県庁所在地など主要都市で放送開始予定
 - ・ホームサーバー普及への動き

等

■ 情報通信環境の発展(その3)

ICタグの活用により、これまでの位置情報(緯度・経度等)に加え、“場所”情報(ほしい情報がその場で得られる)の把握が可能になる。



■ 自律的移動支援のイメージ(その1)

IT技術やピクトの活用で移動制約を軽減できる。

出発前...目的地までの事前情報



道路から鉄道、バスまでシームレスな情報が入手できる
リアルタイムのバリアフリー情報が分かる
.....急な道路工事の情報も手に入る
エレベーターの設置箇所など目的地の状況をあらかじめ確認できる

移動途中...緊急時



急な振替輸送の情報も携帯端末を通じて、情報入手

■ 自律的移動支援のイメージ(その2)

目的地付近



駅の情報センターへ行けば、乗り換え情報を多言語で携帯端末を介して入手できる
情報センターは世界共通のピクトで案内



大事な曲がり角では携帯端末が知らせてくれる
お母さんは、無事に目的地に着いたことを携帯端末で
知ることができる



目的地の正確な場所や入口を音声や振動で案内

■ 自律的移動支援のイメージ(その3)

ユニバーサルなシステムにより、低価格で持続的なサービスが期待できる



ダイヤが乱れても、乗り継ぎや到着時間を的確に知ることができる

普段使わない駅でもスムーズに乗り換えられる



旅行先で沿道建物からの情報提供を活用し、全ての人の観光旅行が快適に

